



「いしづえ」第6号 今年もよろしくお願いします。令和8年1月15日（木）鹿追町立瓜幕中学校

うまがある。

【馬だけに】～タイトルは馬にまつわるワード～

年末、卒業生の同窓会（2つ）に参加した。まずは31歳を迎える卒業生。現状報告から、自身の生活環境の様子、新しく家庭を築いた話など内容が盛りだくさんであった。年齢的に中間管理職として会社を支える立場、そして、後輩社員を育てる難しさなど、15年も経つとここまで具体的な話が対等にできることに喜びを感じた。翌日は25歳の同窓会。こちらは早速、職場・上司に対する思い、大半は仕事の大変さについて話を聞かせてもらった。というよりも聞き役に徹した。実に面白い時間であった。✓

【羽目を外さず】～亥年の人間として～

毎回、この場で自分が教員だということを改めて感じさせてもらえる。子どもたちのおかげである。すでに大人になってはいるものの、私の中では当時のままである。ここまで人の成長を目の当たりにできるのも「教師冥利」というものなのだろう。最後は「先生、また来年ね」で終わっていたが、ここ数年は「先生、体大事にね」と言われる。この配慮は否めない。このイベントで1年を振り返り、新年を迎える準備が整った2025年だった。

【拍車がかかる】～IB認定校として～

新学期は、挨拶とともに「干支」の話。今年は「馬のように〇〇」といった言葉が行き交う1年になるのだろう。本校の生徒たちは、卯・辰・巳年生まれ。干支とは何だ。それぞれの干支には意味があるという話を猪突猛進の如く伝え続けた。まだまだ話したいことはあったが2分以内と決めていたので「ケガなく、事故なく、会えてよかった」で話を終えた。最後に生徒会長から「何事も『うま』くいくように頑張りましょう」。さすが会長でした。

【はなむけの言葉を】～駆け抜けろ～

IB認定から早1ヶ月。「瓜幕中」で検索をすると驚くほどの閲覧項目。とにかく学校としてやるべきことを進めていくことに変わりなし。3年生の進路業務、1年の授業の振り返り、新入生の説明会等、あっという間に3学期は過ぎて行く。今月末には全国スケート大会（長野県）も開催。その後には瓜幕スケート大会も控えている。2026年、馬のごとく駆け抜けていく盛りだくさんの瓜幕中イベントも保護者・地域の皆様と盛り上げていきたいと願っております。ご理解とご支援、そして＊「確かにコチコチおばふ」をよろしくお願ひいたします！